

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300011		
法人名	株式会社ブレインシステム		
事業所名	グループホーム虹の森		
所在地	周智郡森町森1588-5		
自己評価作成日	令和5年 9月 20日	評価結果市町村受理日	令和5年 12月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 11月 7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様お一人おひとりのペースで安心、安全に過ごしていただけるように心掛けている。また認知症の進行を遅らせるように日々の生活の中に取り入れている。たとえば過去に体験したことが有る役割、食事作り、洗濯、趣味活動など。感染症対策の徹底、施設内外(オンラインでの研修)の計画を立てて職員の教育にも力を入れている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

車の往来の少ない場所に立地している施設であることから、散歩はゆったりとできる環境にある。足を延ばせばスーパーやドラッグストアなども利用者と一緒に買い物に行ける場所にある。住宅と畑に囲まれており、水害被害の対象となる可能性がある場所である。消防署との連携は密に取られており水害被害がありそうときは前もって避難できる体制がとれるように指導されている。研修体制も近隣施設と合同で行われており、年間を通して研修計画が組み込まれている。コロナが5類になったことから感染対策をとりながら以前のように幼稚園児や近隣住民との交流も行っていきたいと考えている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社や事業所の理念を基にフロアごとに目標を作り個人目標を作成して各ユニットに張り出している。	今年度のユニット目標である「その人らしさ」を掲げ、職員個々に目標を立てて支援を行うようにしている。半年ごとに確認を行い見直しをしている。職員自身も目標に近づくように活動的になってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより自粛していたが家族会などは再開し少しずつ様子を見ながら地域との交流を増やしている。	地域で行われているオレンジカフェに参加したり、11月の初めにお祭りが復活し施設にも来訪された。少しずつではあるが地域の活動も復活してきたので、今後は参加していこうと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナにより、自粛していたが様子を見ながら再開していきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会を再開し、二か月に一回運営推進委員会を開いている。	今まで書面開催であったがこれから対面開催になるようにしていきたい。参加者は会議を行う曜日などで参加者が変動するが、自治会役員が1年で交代することから参加がなかなか難しい。今後の課題と考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会で話し合う予定の議題を書類で提出している	会議を行う曜日等で毎回の参加は難しいが、議事録を直接市町の担当者に届けるようにしている。担当者が移動になった時も連絡が来ることで話しやすい雰囲気になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員、身体拘束のことを理解し現在身体拘束を行っていない	身体拘束は行っていないと思っているが職員の癖で時々強い口調で話をしてしまうことがある。そのような時には回りで気を付けるように促しを行い配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報道などで話題になったときはスタッフ等で話し合っている。研修などに参加し学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が理解、納得されるよう時間を設けている 改定の際は予め文書で伝え場合によってはより詳細に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで自粛していたが運営推進委員会を再開している	運営推進会議の議事録や2か月に1回虹の森通信を発行している。以前行っていた家族会も奇数月に行うように計画をし開催を始めている。参加者はまだ少ないが、意見の聞ける重要な会議と位置づけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議で意見が出たときは随時行っている。	個人面談は半年に1回定期的に行われている。今まで定着していたチェック票は廃止し、早番の担当が掃除を行う等、環境整備の変更を行った。小物などの購入は現金ですぐに購入出来るようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回の全体会議、施設会議で把握に努めている 必要に応じて面接している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は年間計画を立て施設内研修を実施している施設外研修は社員を対象として随時参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修講演時に参加し交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報共有し実施できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	手紙や面会時などに最近の様子をお伝えし何か要望がないか傾聴している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様が何を望んでいるか見極めるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に散歩、レクリエーション、談話、食事など寄り添える家族のような関係づくりになれるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を行いながら面会時間を共有できるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在面会禁止は解除され、外出なども解除。感染対策を行いながら支援に努めている	以前のような面会ができるようになった。感染予防の観点から窓と出入り口のドアは多少開放しており、マスク着用、手指消毒、検温は継続されている。今まで会えなかったことから短い時間でも何回も面会に来てくれる家族もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でも多くの方が参加できるレクリエーションの計画を立てている。介護職員が間に入り談話できる時間を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内で買い物などであったときに挨拶する程度だが中には近況を話すケースもある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フロア目標に掲げている内容と同意している。日々のかかわりの中で利用者様が楽しみをもって過ごせるように努めている	日頃のちょっとした言葉を聞き逃さないように聞き取りメモを作るようにした。聞いた人が記入して本人専用の用紙に添付し、職員全員が共通認識を持てるようにしている。話した言葉を聞き逃さないように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーからの情報提供や面会時にご家族様に聞いたりしながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内での生活の中、見守り観察し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時ミーティングノートを活用して職員同士で話し合い介護計画を作成している	月一回のミーティングにおいて話し合いの場を設けている。参加者は管理者を含めた職員全員と介護支援専門員、会社の担当者である。作成した計画は家族に確認をしてもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングで職員同士話し合い情報を共有して計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その状況により常に柔軟な対応ができるように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自粛も終わり少しづつ外部とのつながりも再開させている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診ではご本人、ご家族様の意向を優先しながら施設側もアドバイスさせていただき適切な医療が受けられるよう支援していく	地域柄、施設の主治医である総合病院にほぼ全員が受診しており、入居してからの変更はない。主治医は総合病院ではあるが夜間や緊急時には隣の家庭医が行っている。両医院間でのネットワークがあり連携は取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職はいないが介護職が看護の目をもって日々の変化に気づけるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病状の様子や経緯を細かく医療機関に報告している。退院時には退院カンファレンスに積極的に参加し退院後の対応が適切に行えるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内で看取りができることを希望されるご家族様に伝えている。医療連携ネットワークシステムを活用し医療機関の情報がすぐに伝わる仕組みづくりをし急変時の対応に努めている	施設内で看取りまで行うことができることは入居時に文書において説明を行っている。看取り期に移行してくると変更を行う家族が多い。ここしばらくは施設での看取りは行っていない。看取りになってからの説明文書は作成されておらず口頭説明に終わっている。	家族としての不安は大きいと思われる。看取り時の説明は丁寧に行い説明文書や同意文書の作成を早急に行うことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備している 職員には救急救命講習に参加させている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	三月、九月の年二階防災訓練を実施している夜間早朝も実施	PCBの作成は現在委員会において作成中である。水害被害となる可能性の地域であることから、消防署より早めの避難をすることを指示されている。備蓄は7日分用意されている。	自然災害が多く発生している現状から災害計画マニュアル(感染症、自然災害等)個々にあったマニュアルの作成を早急に行うことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し目線を合わせた言葉かけをすることを心掛けている	一人ひとりに合った声掛けを職員全員が気を付けており、さりげない言葉かけを行うようにしている。目線を合わせたり相手を傷つけないよう注意をしながら利用者に不快な思いをさせないような言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行うときは本人の意見や意思を尊重し無理強いをしないように行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを確認し体調にも配慮してレクリエーションなどは必ず声掛けして参加の確認をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が決めることができる方は本人に決めていただいているできない方は体調や天候季節に合わせて着る服を選び、身だしなみを整える支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を拭いたりおかずの盛り付けなどしていただいている。塩分制限のある方カロリー控えめの方は盛り付け工夫、味付け工夫しながら行っている	食材は注文をし配達で対応しているが調理は職員が行っている。以前は職員も一緒に食事を摂っていたがコロナ禍で現在は取りやめている。今後様子を見ながら利用者との食事を楽しんでいきたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が取れていない入居者様には高カロリー食の提供。水分は入居者様の好みに合わせて飲み物を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の4回口腔ケアを行っている。ご本人様に先ず行っていただき状況によって職員が手伝うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを記入し一人一人の排泄パターンを把握し声掛け、または誘導、排泄介助を行っている	排泄チェックシートを活用してトイレ誘導を行うようにしている。誘導時に拒否をする方は現在いないが「ちょっと来ていただけますか」等声を掛け、さりげなく誘導している。便秘予防に水分を多く飲んでもらうよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量水分量をチェックし医師の指示も受けて便秘薬の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2~3回は入浴されている。希望に合わせて他の日も入浴していただいている。状況に合わせて足浴やシャワー浴も行っている	週に最低2回の入浴を行っており、状況に応じて足浴やシャワー浴も並行して行われている。季節ごと(ゆず湯やしょうぶ湯)を入れたり利用者の好みの入浴剤を入れ楽しみに繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や入浴後は自由に過ごされ休息していただいている夜間も入居者様の意思で過ごされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の在庫管理と現在飲んでいる薬を一覧にしており入居者様の状況に合わせて服薬を支援している 誤認しないように本人確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前と午後、一時間ほどレクの時間を設けている興味のない方には個別に興味のあることを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には散歩を行っている計画を立ててドライブなどにも出かけている	天候の良い日は施設周辺を散歩し、帰りに近隣のスーパーや薬局で買い物をしている。日常的に使用しているもので不足があった時にも利用者と一緒に買い物に出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設が建て替え、後日ご家族様に請求している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。月に一回ご家族様へ近況報告として職員が手紙に写真を添えて出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、消毒を毎日行っている。室内もその日の気候に合わせて行っている。フロアの大きな壁に壁画を作って貼ってある	掃除・消毒は職員が毎日行っている。フロア内には毎月利用者と職員と一緒に作成した、季節に合わせた装飾品を展示している。ゆったりくつろげるような空間作りとなるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのスペースの中でソファを用意したり剤が難しい方にはリクライニングチェアを用意したりしてくつろぎやすい空間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使っていただいている思い出の写真やレクで作った作品などを飾りいつでも見られるようにしている	今まで使っていた好みのものを持ってきていたり、みんなで作った作品を飾っていたりしている。居室内の掃除も職員と一緒に رفتりして自分自身の居室環境の整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア居室内、廊下にも手するがついている。トイレの場所がわかりやすいように張り紙を張っている		